業績が好調な今こそ、長期的な視点で“第2の収益の柱”となる事業へ投資を

取締役（非常勤）

佐藤 陽子

市場の影響を受けやすい主力事業を考慮し海外市場で活躍する人財と人員の強化を

私が社外取締役に就任した約5年前と比較しても、トーカロは国内外の溶射・表面処理事業への投資を進めて売上高、利益ともに増収増益を続けています。発言しやすい取締役会の雰囲気からも、風通しのいい企業風土がうかがえます。

特定の世代にかたよらない人財育成の取り組みがトーカロの強みと感じています。女性活躍推進に関しても、私の就任直前から注力されており、その真摯な姿勢を高く評価しています。そのうえで課題と言えるのが、少し先のあるべき姿を目指すための経営戦略の構築と投資のバランスを考えていくことではないでしょうか。業績が好調な今だからこそ取り組めることなので、長期的な目線で取り組むべきだと思います。

今後は既存事業にとどまらず、海外拠点の拡充、国内外でのM&Aなどを検討する機会が増えていくものと思います。そのためには、スムーズな交渉・調整が可能な海外人財の充実と人員の強化を最優先に進めてほしいと考えています。トーカロにかぎらず企業を取り巻く環境の変化はますます激しくなっています。変化への迅速な対応力を高めるためにも、長期的な視野で取り組むべき課題を分析する部署や専門家の活用も必須になるでしょう。現在業績をけん引している半導体・FPD分野は、市場変動の影響を受けやすい分野です。それを考慮して、業績が堅牢な今こそ、第2の収益の柱となる部門への投資と人財育成を、積極的に検討すべきです。

成長フェーズにある今こそ管理人財育成とDX推進による企業基盤の強化を

一般的に企業は規模が拡大する過程で現場での人員拡充が優先されるあまり、管理を担う人財が不足していく傾向があります。トーカロも企業規模を拡大しているフェーズですので、優先度の高い海外子会社の管理部門で人財育成に注力する必要があると感じています。売上が増えれば取引先からのコスト削減要請も強まりますし、人による管理にも限界があります。現在の管理手法で対応は十分なのか、デジタルトランスフォーメーション（DX）の活用拡大を進めるなど将来を見据えた検討も進めていくことが重要です。

ダイバーシティ推進の一環として執行役員への女性の登用が求められています。しかし、社内だけでなく社外にも目を向けて人財を登用するなど、新たな試みにも取り組む姿勢が求められます。また、前向きな株主還元などステークホルダーのニーズに応える姿勢は評価できますが、より明確に経営戦略をアピールできる中長期計画のブラッシュアップにも期待しています。

トーカロはいま、着実に企業規模を拡大している途上にあります。めまぐるしい社会と市場の変化へスピーディーに対応していくための組織構築の過渡期でもあります。ステークホルダーの皆さまには、今後も多様なご意見やご要望をお寄せいただき、ともに企業の持続的成長を実現していけましたら幸いです。そしてトーカロは、寄せられた声を糧に変え、柔軟かつ前向きに進化し続ける企業であり続けてほしいと考えています。